

問1 平安時代の中期に発達した文化について、その成立背景や特徴を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2026年 神奈川県立入試 類似）

立入試 類似

- 遣唐使の停止により大陸との直接的な交流が途絶えたことで、日本の生活や感性に合わせた独自の文化が発達した
- 聖武天皇の時代に、仏教による国家の安定を願って、大陸の進んだ技術や国際色豊かな文化が導入された
- 下剋上の社会風潮を背景に、大名や豪商たちの権力を象徴するような豪華で壮大な文化が開花した
- 中国の宋との貿易が盛んになったことで、禅宗とともに新しい形式の喫茶の習慣や水墨画が伝えられた

問2 8世紀から9世紀にかけて、日本は帆を張った大型の木造船を用いて、200年以上にわたり中国へ使節団を派遣していました。この船には最澄や空海などの僧も乗り込み、最新の仏教や文化を日本に持ち帰りました。このような国際的な文化交流が行われていた時代に、国内では桓武天皇の命を受け、征夷大将軍として東北地方の蝦夷（えみし）との戦いを進めた人物は誰ですか。（2019年 愛知公立入試 類似）

- 坂上田村麻呂
- 卑弥呼
- 藤原道長
- 藤原頼通

問3 平安時代後期、奥州藤原氏が平泉に中尊寺などの寺院群を建立した背景や目的について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 東京都公立入試 類似）

- 前九年・後三年合戦による戦没者を弔い、浄土思想に基づく平和な社会を築くことを願ったため
- 源頼朝の軍勢による攻撃を阻止するため、要塞としての機能を持つ巨大な寺院を建設したため
- 平清盛が推進した日宋貿易に對抗し、東北独自の金輸出ルートを確認するための象徴としたため
- 聖武天皇の命により、東北地方の安定を図るための国分寺として建立されたため

問4 平安時代初期の仏教は、それまでの奈良時代の仏教と異なり、山の中に寺院を建てて修行に励む傾向が見られました。この時期に最澄が比叡山を拠点として広めた新しい仏教の教えは、後の鎌倉時代に登場する多くの開祖たちにも大きな影響を与えましたが、その宗派名を答えなさい。（2024年 山形公立入試 類似）

- 天台宗
- 真言宗
- 浄土宗
- 禅宗

問5 奈良時代に編纂された『万葉集』と、平安時代中期に編纂された『古今和歌集』における和歌の題材を比較すると、万葉集では中国文化の影響から「梅」を詠んだ歌が多かったのに対し、古今和歌集では「桜」を詠んだ歌が急増するという変化が見られます。このように、日本の自然や情緒を重んじるようになった文化の時期に成立した作品として、正しいものはどれですか。（2023年 島根公立入試 類似）

- 源氏物語
- 東大寺正倉院の宝物
- 平家物語
- 解体新書

問6 岩手県にある中尊寺金色堂は、奥州藤原氏が浄土信仰に基づいて建立した、当時の華やかな文化を伝える建築物です。これと同様に、藤原氏の権勢が絶頂期にあった時代、極楽浄土の様子を再現する目的で京都の宇治に建てられた建築物を次から選びなさい。（2018年 群馬県公立入試 類似）

- 平等院鳳凰堂
- 厳島神社
- 東大寺大仏殿
- 銀閣（慈照寺観音殿）

問7 平安時代の外交と文化の変化について、894年に菅原道真が遣唐使の中止を建議した背景とその後の影響を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2018年 岐阜公立入試 類似）

- 唐が衰退して日本が学ぶべきことが少なくなったことや往復の危険が理由であり、中止後は日本独自の「国風文化」が発達する一因となった。
- 聖徳太子以来の仏教中心の政治を否定するために行われ、大陸との交流を完全に断つことで平清盛による武家政治が始まるきっかけとなった。
- 宋との日宋貿易を独占的に開始するための準備として行われ、貴族の間で中国の文化をそのまま取り入れる傾向が一段と強まった。
- 国内での仏教振興が十分に進んだために行われ、この中止によって平氏に代わる源氏の勢力が地方で急速に拡大することになった。

問8 平安時代の皇族と藤原氏のつながりを示す系図において、藤原道長が自分の娘である彰子などを次々と天皇の后（きさき）にし、その子供が天皇に即位する流れが繰り返されていることがわかります。藤原氏がこのようにして権力を独占した手法と目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 埼玉県公立入試 類似）

- 天皇の母方の祖父（外戚）という立場を確立し、天皇を後見することで政治の実権を握るため
- 武士団を組織して軍事的な圧力をかけ、太政官などの伝統的な行政組織を廃止するため
- 天皇の位を廃止して、藤原氏自らが新しい王朝を開くための正当性を得るため
- 遣唐使を通じて得た海外の知識を独占し、天皇を政治から遠ざけて知識層による共和制を行うため

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 遣唐使の停止により大陸との直接的な交流が途絶えたことで、日本の生活や感性に合わせた独自の文化が発達した	九世紀末の遣唐使停止によって、外来の文化をそのまま模倣するのではなく、日本の風土に適した形に消化するプロセスが進みました。この時期には、漢字を崩して作られた「かな文字」が普及し、『源氏物語』や『枕草子』といった優れた女流文学が生まれたほか、貴族の住居として日本の気候に合わせた「寝殿造」が普及するなど、日本的な美意識が強く反映されるようになりました。
問2	<b>答え 1</b> 坂上田村麻呂	当時の日本は遣唐使を派遣し、唐の進んだ制度や仏教文化を取り入れていました。最澄や空海が渡海したこの時代は、国内での中央集権化も進められていた時期にあたります。桓武天皇は国内の安定と勢力拡大を目指し、坂上田村麻呂を征夷大將軍に任命して東北地方へ派遣しました。彼は軍事的な成功を取めるだけでなく、現地の支配を安定させるための拠点作りを担いました。
問3	<b>答え 1</b> 前九年・後三年合戦による戦没者を弔い、浄土思想に基づく平和な社会を築くことを願ったため	奥州藤原氏の初代清衡は、自身の家族を失うほどの激しい戦乱（前九年合戦・後三年合戦）を経験しました。その惨劇を繰り返さないよう、すべての死者を平等に供養し、現世に仏の理想郷を実現しようとした。この「浄土思想」が平泉の文化形成の大きな背景となっています。
問4	<b>答え 1</b> 天台宗	最澄が開いた天台宗の拠点である比叡山延暦寺は、後に「日本仏教の母」と呼ばれるほど多くの僧侶を輩出しました。法然や親鸞、日蓮といった鎌倉新仏教の開祖たちの多くも、もとはこの比叡山で修行を積んでおり、最澄がもたらした教えが日本の宗教史における重要な基盤となったことがわかります。
問5	<b>答え 1</b> 源氏物語	万葉集から古今和歌集への変化は、外来の価値観から日本独自の価値観への移行、すなわち国風文化の確立を象徴しています。この時期には、かな文字の発達により、紫式部による『源氏物語』や清少納言による『枕草子』などの優れた女流文学が数多く誕生しました。
問6	<b>答え 1</b> 平等院鳳凰堂	中尊寺金色堂と平等院鳳凰堂は、ともに平安時代の「国風文化」の中で、浄土信仰の影響を強く受けて建設されたという共通点があります。どちらも死後の安らぎを願う当時の人々の世界観を、豪華な建築や装飾で表現しています。
問7	<b>答え 1</b> 唐が衰退して日本が学ぶべきことが少なくなったことや往復の危険が理由であり、中止後は日本独自の「国風文化」が発達する一因となった。	菅原道真は、派遣先である唐の国力が衰えていたことや、航海に伴う危険が大きかったことを理由に遣唐使の中止を提案しました。これにより、それまでの中国文化の影響を強く受けた文化から、日本の風土や生活感覚に合わせた「国風文化」へと発展していく契機となりました。平清盛による日宋貿易は、さらに後の平安時代末期の出来事です。
問8	<b>答え 1</b> 天皇の母方の祖父（外戚）という立場を確立し、天皇を後見することで政治の実権を握るため	藤原氏は「外戚（がいせき）」、つまり天皇の母方の親戚となることで、宮廷内での発言力を極限まで高めました。藤原兼家や道長は、娘を天皇の妃として送り込み、生まれた皇子が即位すると、その祖父として摂政などの要職に就きました。これは武力によるクーデターではなく、当時の婚姻制度や家族形態を利用した権力独占の仕組みです。